

(別紙様式)

(A 3 判横)

平成 30 年度 学校自己評価システムシート (県立白岡高等学校)

目指す学校像	自主と奉仕の精神に満ち、社会に貢献する人間を育てる、地域から信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 確かな学力を育成するために、授業改善をはじめとする学力向上に関する取組を推進する。 学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを推進する。 生徒一人一人の、自立する力を育む進路指導を推進する。 豊かな心と健やかな体を有する、明るく活力ある生徒を育成する。
------	--

※ 重点目標は 3 つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8 割以上)
	B	概ね達成 (6 割以上)
	C	変化の兆し (4 割以上)
	D	不十分 (4 割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10 名
	生徒	3 名
	事務局 (教職員)	6 名

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価						
年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導してる」の満足度は高いが、次期学習指導要領に係る教育課程の編成には工夫が必要であり、更なる研究と対策を講じ改善を進めなければならない。 生徒の学力実態に応じた指導や学習サポートによる補習や授業支援は、欠点保有者の減少に成果をあげている。また、成績上位者支援のための進学補習は計画的に実施できている。さらに進路指導における情報提供や生徒の意欲向上に向けた取り組みを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人が生徒それぞれが抱える問題を把握し、指導の改善に努める。生徒の学習意欲の向上につなげる。 生徒の学力に応じた学習環境を整え、基礎学力の定着と上位層の学力向上に取り組むとともに、生徒一人一人が希望する進路目標を達成させるための意欲と学力の定着を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習評価アンケートの結果をもとに生徒個々の理解が深まるよう授業改善を実施する。 年間 2 回の授業公開・研究週間において、各教科ごとの研究授業・研究協議等を実施する。 校内や教科会を通じ研修情報の共有を図り実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> 各学年に応じた適切かつ効果的な学習指導を実施し、基礎力の定着を目指す。 進路指導部や学力向上プロジェクトと連携し、生徒への進学補習等を実施する。 学習サポートを授業や補習に活用し、特に数学の基礎学力を高める。 指名補習や学習会を実施する。 「全ての教室へ新聞を運動」に参加する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導してる」の肯定的評価を 80%以上とする。 各教科ごとの情報提供が職員に対して行われる。 授業改善に関する研修会・研究会への参加を推進し、授業実践する。 長期休業中の課題の提出率が 100%とする。 進学を目的とした補習等に参加する生徒を増加させる。 1 年生の 7 割が数学学習到達度「中学生以上」とする。 各学期の欠点保有者を各学年 20 名以下とする。 生活実態アンケートにおける「新聞を毎日読むか」肯定的評価 50%以上とする。 	<p>確実な目標設定が行えるように、情報提供を行うとともに生徒個々にあった指導を展開するよう実践した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10月にアンケートを実施。生徒理解を深めた。1年生 81% 2年生 80% 3年生 84% 公開授業を 2 回実施。(5月、11月)見学者に意見や感想をいただいた。 学習サポートを有効に活用し、数学の学力定着に貢献した。また、新学習指導要領の変更点について情報収集を行い、各教科内の理解統一を図った。 <p>意欲を持って学習活動が行えるよう、特一並びに課題の提供を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題の提出率 100%を目指し指導を継続した。また、長期休業明けに課題テストを実施し、学力の定着度合いを確認した。 長期休において進路指導部が主体になり、各教科における進学補習を実施した。生徒の参加については積極性に欠ける傾向がある。 数学において、学習サポートを有効に活用した。基礎学力の定着が図られた。 各学期学年主導で指名補習を実施し、生徒の学力改善に取り組んだ。欠点保有者は 1 学期 1 年 12 名、2 年 10 名、3 年 0 名であった。2 学期では 1 年 21 名、2 年 12 名、3 年 7 名となった。 各クラスへの新聞配布を継続した。新聞は授業の教材としても使用され、活字離れの要素を払拭するように指導した。更に、新聞を読む生徒が増加するよう取組む必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、学習する意欲と授業への取組み状況を更に高める必要がある。授業改善を進めなければならない。そのためには学力の定着や向上を目指すために具体的に現実的な取組を工夫し展開していく。 生徒や保護者が納得できる授業を行い理解を深めることが重要である。そのためにも、学習指導要領の変更や充実に伴う情報を提供し続けるとともに、授業における具体的な実践を展開する。効果的な授業改革を研究し、具体的に展開していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事への積極的な参加や活弁な奉仕活動によって、保護者や地域住民、白岡市との連携は深まっている。ホームページの更新 100 回以上、Twitter 配信は 30 回以上行い、アンケート項目で「情報発信に対する評価」の肯定的評価を得た。 「快適ハイスクール事業」における校内行事の変更があり、説明会の日程が変更された。これは生徒募集への影響が多分にあったことが推察される。学校説明会等の日程や内容の工夫を行い、さらに効果的な生徒募集活動の展開が課題である。 創立 30 周年事業として始まった国際交流事業を、継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程、教育活動や部活動に関する情報発信の手段を工夫する。 学校の様子について、様々な方法を用いて情報発信を行う。 学校説明会の実施方法と内容の改善を続けるとともに、中学校教職員、生徒、保護者への情報提供を工夫し、本校教育の特長を周知する。 P T A 後援会・白岡市内中学校や地域の方達の協力により、受け入れ派遣、交流事業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 募集について周知し、これまでと同様に選択できる科目に変更がないことを発信する。 情報発信について内容を精査し、ホームページの更新年間 100 回以上、Twitter 配信 30 回以上行い、積極的に学校の情報を発信する。また、ネット連絡帳の有効性を研究し活用を推進する。 新聞や市の広報誌等にも情報を広く発信する。 近隣大学との連携を深め事業をさらに推進する。 高大接続事業を定着させる。 地域行事への参加を継続する。 	<ol style="list-style-type: none"> 入試志願倍率が 1.1 倍を上回る。 学校説明会の参加者を 10%増加させる。 地元からの志願者を 10%増加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 的確な情報提供に努め、入試志願倍率が 1.1 倍を上回る。 評価アンケートにおける項目「学校からの情報提供への満足度」の肯定的評価 85%以上とする。 新聞、広報誌への掲載回数を年間 15 回以上行う。 近隣の大学との連携を深め事業をさらに推進する。 7プロジェクトを立上げ、研究と定着を図る。 地域行事への参加を継続する。 	<p>学校広報について、情報発信を丁寧な内容で確実に実施し、本校の生徒募集につなげられるよう工夫した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校説明会において、『普通科』募集としての学年毎の科目選択について丁寧に説明した。 ホームページの更新は行事に合わせ適宜行った。また、メール配信は 19 回行い情報提供した。メール配信の登録者は 7 割程度となっている。 市広報誌への本校特集を 5 月から 5 月連続で行った。また、新聞等への情報提供を行い記事が掲載された。 運動部活動と女子栄養大学との栄養指導・体力測定との連携を行った。 学校支援システム及び e-ポートフォリオの次年度導入に向け、研究を進め職員への理解を深めた。 刈っ白岡、ボランティア活動を実施し、地域の団体や組織と連携した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりを念頭に、学校の行事や取組みを積極的に発信していく。また、公開された情報については、次年度の生徒募集に直結できるよう、わかり易く内容を簡潔に伝えられるよう継続して進めていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者の進路指導に対する評価は高く、就職においては内定率 100%を達成し、卒業生の全てが進路を決定している。 生徒には、各学年における進路指導を行い、各自が希望している進路先を十分に理解させ、自己の適性や能力も考慮した上で、意欲的な態度によりよりよい進路選択ができるよう指導することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の興味関心、適性及び能力を踏まえて的確な進路選択ができるよう指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 各学年において行われる進路ワークショップや進路ガイダンス、分野別ガイダンス及び就職指導の内容を工夫し、効果的な指導を実施する。 企業訪問や、入試説明会に積極的に参加し、有益な情報を生徒に提供する。 指定校枠の確保や活用を行い、新規の指定校、就職先を開拓する。 	<ol style="list-style-type: none"> 就職内定率 100%を維持する。 生徒、保護者対象の学校評価アンケートにおける項目「進路結果についての満足度」で肯定的評価 90%以上を目指す。 重点指定校の決定率 50%以上、及び維持、新規の指定校の獲得、並びに求人開拓を行う。 	<p>意欲を持って目標とする進路に向かえるよう、確実に情報提供を行った。また、生徒が疑問に思ふ内容には的確な回答を準備し、助言した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 各学年において進路に関する情報提供を行った。また、卒業を控えた生徒に対し、進路決定率 100%を目指している。その中で、就職希望者は 100%を達成している。 新規の求人について積極的に働きかけた。求人票 1,400 件を上回った。 指定校の確保を行い、新規の指定校、学部を開拓するように取り組んだ。指定校数 90 校 (大学、短大 11 校、その学部数 22 部) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路目標に対し、生徒の興味関心や適性を踏まえたうえで、時機を捉えた計画的な情報提供を行い、自ら選択できる能力を育成していく。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が守られ、元気のよい挨拶ができる生徒が多く、部活動、学校行事も活発に行われ、成果をあげている。一方で精神的に不安定で支援が必要な生徒の入学も増えている。 種々の教育活動を通して達成感を抱かせ、自主自律の精神を育成している。また、教育相談委員会が機能し、相談と支援の充実が図られた。今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを有効に活用し共生社会事業支援との連携により、通級を実施する必要がある。 保健施設部や事務室の適正な指導によって良好な学習環境が整備されている。今後も校内環境の維持に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通理解に基づく、一貫した指導の実践を通して、充実した学校生活を送れる環境づくりに、引き続き取り組む。 教育相談体制をさらに機能させ、支援が必要な生徒の把握・情報の共有・支援に取り組む。更には通級の実施に向け研究を重ねる。 清掃指導を徹底し、学習環境作りに取り組む。 安全点検を定期的に行い、安全な環境を維持する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒指導部会や職員研修を通して生徒指導に関する共通理解を深め、いじめや問題行動等の早期発見、早期解決に努める。 部活動において生徒と関わる時間を増やし、技術力やチーム力の向上を図るとともに、生徒の人間形成を主眼とした活動を推進する。 各学年からの情報を全職員が共有し、効果的な教育相談を展開する。 共生社会育成拠点校として、支援が必要な生徒へのサポートを推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> いじめゼロ、生徒指導の人数を 10 名以内とする。 県大会以上の大会に出場する部活動 11 部以上、県入賞 3 部以上、県大会ベスト 16 以上 5 部とする。 中途退学者を 10 名以内にする。 高相研やカウンセリング、特別支援教育に関する研修会へ積極的に参加する。 	<p>いじめの早期発見、早期対応のために教職員で情報を共有し、問題解決へとつなげた。また、各部活動においては計画的に練習を行い、成果を収めている。特に、働き方改革に基づく部活動方針では、部活動の特性に合わせ改革を推進する動きが出てきている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 謹慎以上の問題行動 10 件。 県大会出場 11 部、関東大会出場延べ 2 部を達成した。 <p>生徒個々の支援に向けて、カウンセリングと相談を計画的に行った。また、得た情報については教職員間で共有し、効果的な指導の実践に役立てた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 中途退学者 8 名。 特別支援教育委員会や特別支援コーディネーターを中心に、巡回支援員、カウンセリング、ソーシャルワーカー及び特別支援学校支援員を計画的に招聘し、生徒支援を積極的に行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の実践を続ける中で、共通理解や実践の継続は重要な部分を担っている。時代に即し、生徒が納得のいく指導を展開するため、指導方針と方法を再考し、実践する。 日常生活支援を確立する支援体制は整備され、実践してきた。今後も支援を実現するためにより適した支援の在り方の工夫と教職員の共通理解が必要である。 	
		<ol style="list-style-type: none"> 毎日の清掃指導や、定期的な清掃用具の充実を継続する。 定期的な安全点検を実施するとともに、「快適ハイスクール事業」の完成に向けた校外の環境整備に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 校内公開行事等において、校内美化を徹底し、来客者を迎える。 夏季休業中の校内活動や部活動において、工夫した活動日程等で事業に協力する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習環境の維持・管理を保持するため、教職員が団結して取り組んだ。 校内美化を徹底した。また、「快適ハイスクール事業」により、校舍改修を実施した。 安全点検を定期的 (学期に 1 回) に実施し、改善箇所を把握した。改善箇所については、すぐに対応して学校内の安全を確保した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校内の学習環境や生活環境について、維持継続するための努力する。安全で安心な環境をこれからも維持していく。 		